

# 社員が「働きがい」を持つ、 それがCSRの原動力

## ICTが人と社会にできること

社会における情報システムの果たす役割は、時代とともに変遷してきました。国内においては1950年代以降、商用コンピュータやオンライン・システムは主に企業経営を支えるものとして活用されてきましたが、現代における情報システムは、経営分野にとどまらず日々の生活に欠かすことのできない社会インフラとなっています。

2008年に創立50周年を迎えた日本ユニシスグループは、創立以来半世紀の間、お客さまのIT（情報技術）およびビジネスのパートナーとして、金融・製造・流通、社会公共など幅広い領域で、お客さまの経営革新を支えることで社会の発展に貢献してきました。そして、近年情報技術と通信技術を融合したICT（情報通信技術）の利用機会が飛躍的に広まる

なか、当社グループは「ICTが人と社会にできること」をCSR活動のテーマに掲げ、ICTのサービスやソリューションの提供を通じた社会的な課題解決への取り組みを、より一層進めてまいります。

## より良い地球環境の実現に向けて

近年、地球温暖化問題に対する「企業の社会的責任」への関心や要請が急速に高まってきています。またICT分野においても、これらの課題への対応が強く求められています。

こうしたなかで、日本ユニシスグループにおいての「ICTが地球のためにできること」は何か—例えば、テレワークを活用したワークスタイルの変革によりペーパーレスを前提とした働き方を実現していく。また、低炭素社会実現の手段



として期待されている電気自動車の活用においては、ネットワーク化された充電インフラシステムの提供を通じて、それらの普及を支援していく。こうした取り組みを、従来以上に優先的な活動として推進してまいります。

一方、企業情報システムの形態における“所有型から利用型へ”という動きが加速しているなか、ICTサービス分野においては、「クラウドコンピューティング」と呼ばれるインターネットを経由したコンピュータ機能の提供を通じて、コンピュータ利用にともなう消費電力を大幅に削減することが可能となっています。温室効果ガスの排出量削減が社会的な共通課題として求められている今、当社グループではICTの活用による“新たな価値”を創造していくことによって、地球環境の保全に寄与していきたいと考えています。

## 社員が働きがいを 自ら見つけられる会社になりたい

地球環境問題以外にも、現代社会が直面しているさまざまな課題—少子化・高齢化への対応や教育問題、地域社会の活性化、被災時の社会機能維持などにおいて、情報基盤としてのICTが果たす役割は小さくありません。

私は、会社が事業活動を通じて社会的責任を果たしていきななかで、その大きな原動力となるのは、社員が自らの仕事に対するこうした社会的意義を実感し、誇りを持って働

いていけることだと考えています。日々仕事をしていくなかで、さまざまな経験を通じて社員一人ひとりが自己研鑽をし、仕事への目的意識や「働きがい」を高めていくことが、会社独自の文化を形成し、CSRを活性化していくのではないのでしょうか。そうした意味で、CSRというのは決して特別な何かを始めるということではなく、一人ひとりが目の前の仕事にきちんと向き合い、そのなかで“人と社会にできること”を考え実行していくことに、ほかならないと思います。

経営者としては、社内研修制度を通じてそうした社員の自己研鑽を支援していくとともに、2008年度より導入した在宅勤務制度などをおして、働きやすい環境の整備に努めてまいりたいと思います。

## 共感・信頼される企業をめざして

日本ユニシスグループでは、2005年にCSR推進部署を設置して以来、毎年のCSR報告書を通じて当社グループのCSRコンセプトや活動内容を紹介しています。多くの方々にご覧いただき、当社グループの取り組みをご理解いただくとともに、掲載されている多くの社員の声を通じて、私たちのCSRに対する「想い」の一端を感じとっていただければ幸いです。

これからもステークホルダーのみなさまから共感・信頼いただける企業をめざして活動してまいります。みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちしております。

日本ユニシス株式会社 代表取締役社長

もみ い かつ と  
梶井 勝人